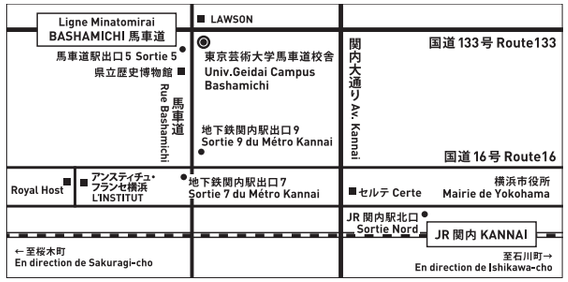
上映スケジュール CALENDRIER

5.18（土）	**15:00**	**勤務につけ！** Au poste !（73分）
	16:40	**シェエラザード** Shéhérazade（112分） 上映後、三宅唱氏によるアフタートークあり suivi d'une conférence de Sho Miyake
6.29（土）	**14:00**	**海辺の恋** L'Amour à la mer（73分）
	15:40	**切られたパンに**（オー・パン・クペ） Au pan coupé（71分）
	17:10	**地上の輝き** Le Clair de terre（102分） 上映後、岡田秀則氏によるアフタートークあり suivi d'une conférence de Hidenori Okada

■ 入場料金　一般：1200円、アンスティチュ・フランセ会員・学生：600円、東京藝術大学の学生無料（一般の方は、同日2作品セット1,800円、3作品セット2,400円）■ チケット販売　前売券の販売はございません。当日券は、会場（東京藝術大学馬車道校舎）にて1本目の開演30分前より販売、現金支払いのみ。※開場は、1本目開演30分前、2本目・3本目開演20分前より。1本目から同日上映作品のチケットを同時にご購入いただけます。※番号順でのご入場・全席自由席・各回入替制。※プログラムはやむを得ない事情により変更されることがございますが、予めご了承下さい。

Tarifs d'entrée aux projections : Adhérents 600 yens par film ; non-adhérents 1200 yens pour un film, 1800 yens pour 2 films le même jour, 2400 yens pour 3 films le même jour. Gratuit pour les étudiants de l'Université des Beaux-Arts de Tokyo. Les billets seront mis en vente uniquement sur place 30 min avant la 1ère séance à l'Université des Beau-Arts de Tokyo (Campus Bashamichi). Paiement seulement en espèces. Ouverture des portes 30 min avant la 1ère séance et 20 min avant la 2ème et la 3ème séance.

会場 **東京藝術大学** **馬車道校舎** 231-0005 神奈川県横浜市中区本町4-44



第1回　映画／批評月間〜フランス映画の現在をめぐって〜

[**主催**]アンスティチュ・フランセ日本 [**助成**]アンスティチュ・フランセパリ本部、ユニフランス [**アンスティチュ・フランセ日本 映画プログラム オフィシャル・パートナー**]CNC、笹川日仏 財団、TV5 MONDE [**フィルム提供及び協力**]シネマテーク・フランセーズ、エチェ・フィルム、ゴーモン、国立視聴覚センター、株式会社クロックワークス、ロブスター・フィルム、MK2、プレイタイム、トランスフォーマー、ワイルド・バンチ [**特別協力**]ユニフランス、Bart.lab [**後援**]横浜市文化観光局

Mois de la critique – nouveaux rendez-vous du cinéma français

Organisé par : l'Institut français du Japon ; avec le soutien de : Institut français, CNC, Fondation Sasakawa, TV5 MONDE et la Ville de Yokohama ; merci à : Bart.lab, la Cinémathèque francaise, Ecce Films, Gaumont, INA, The Klockworx, INA, Klockworks, Lobster Films, MK2, Playtime, Transformer, Unifrance, Wild Bunch

お問い合わせ **アンスティチュ・フランセ横浜**（旧・横浜日仏学院）
231-0015 横浜市中区尾上町5-76 明治屋尾上町ビル7階 ☎045-201-1514 yokohama@institutfrancais.jp www.institutfrancais.jp/yokohama

LE MOIS DE LA FRANCE À YOKOHAMA 2019
横浜フランス月間 2019

今年で15年目を迎える、日本で唯一のフランス文化の祭典。1ヶ月の間、市内の美術館や劇場、アートスペースや映画館、またレストランなどで、フランスに関する様々なイベントが開催されます。横浜の町がフランス色に染まる5週間。ぜひお楽しみください！

＊詳細はホームページ、および「横浜フランス月間2019」公式プログラムにて発表いたします。

INSTITUT FRANÇAIS　CNC　FONDATION SASAKAWA　TV5MONDE　UNIFRANCE　ダイワロイネットホテルズ

横浜シネクラブ
CINÉ-CLUB À YOKOHAMA

mois de la critique
映画／批評月間

《フランス映画の現在をめぐって》
Nouveaux rendez-vous du cinéma français
Vol.01

Photo: Shéhérazade de Jean-Bernard Marlin

会場：**東京藝術大学**（横浜・馬車道校舎）
à l'Université des Beaux-Arts de Tokyo (Campus Bashamichi)

2019.5.18 土 samedi 18 mai 2019

ベスト・オブ 2018 〜新世代の監督たち〜

BEST OF 2018 : RÉALISATEURS DE LA NOUVELLE GÉNÉRATION

特別ゲスト **三宅唱**（映画監督） Invité spécial : Sho Miyake

2019.6.29 土 samedi 29 juin 2019

ギィ・ジル〜見出された映画作家〜

RÉTROSPECTIVE GUY GILLES, UN CINÉASTE RETROUVÉ

特別ゲスト **岡田秀則**（映画研究者） Invité spécial : Hidenori Okada

INSTITUT FRANÇAIS アンスティチュ・フランセ横浜 Japon・Yokohama　vivre les cultures

これまで20年近く、映画雑誌「カイエ・デュ・シネマ」とともにフランス映画の現在を紹介してきましたが、今年より新たに「映画／批評月間〜フランス映画の現在をめぐって〜」と題して、同雑誌を含むより多くのフランスのメディア、批評家、専門家、フェスティバルや文化施設のプログラマーらと協力し、ご紹介します。第1回目は、フランス日刊紙「リベラシオン」の映画批評家であり、同紙文化部チーフ、ジュリアン・ジェステールとともに、いま最も興味深い新世代のフランス映画を選出しお届けします。また近年再評価の機運が高まっている知られざる映画作家ギィ・ジルの特集も行います。新しい世代をはじめ、フランスの映画作家たちが多様な領域を越えて果敢に挑んでいるフランス映画の現在を発見し、映画の可能性、また映画と批評の間の多様な可能性について考察します。

2019.5.18〈土〉 SAMEDI 18 MAI 2019

ベスト・オブ 2018 〜新世代の監督たち〜

BEST OF 2018 : RÉALISATEURS DE LA NOUVELLE CÉNÉRATION

＊16:40の回上映後、三宅唱氏（映画監督）によるアフタートークを予定しています。

「使い古された主題や作風に身動きが取れなくなり、資金不足で製作力も弱っている、ここ何年かそのように言われ続けてきたフランス映画だが、驚くべき才能を担った新たな世代も出現している。彼ら若手監督たちの作品は、大きな志や独特な想像力によって、使い古されたコードや時代が定める気が滅入るような宿命にはっきりと抵抗を示している」ジュリアン・ジェステール

[15:00-]

勤務につけ！

Au poste ! de Quentin Dupieux

［フランス／2018年／73分／カラー／デジタル／フランス語／日本語字幕］

監督：カンタン・デュピュー　出演：ブノワ・ポールヴールド、アナイス・ドゥムースティエ、グレゴワール・ルディッグ、マルク・フレーズ、オレルサン 、ペドロ・ウィンター

© DR

舞台はとある警察署。ブロン捜査官は、血まみれで見つかったある男の殺人事件の調査を担当し、遺体を発見したフガンという男を第一容疑者として取り調べることに。言葉が記憶を呼び、記憶が現実に侵入し、そこに虚構が混ざり合っていく…。フランス映画界の異端児、カンタン・デュピュー監督による新作コメディ。

© DR

「フレンチ・エレクトロ・ムーブメントを代表するアーティストであり、映像作家でもあるミスター・オワゾ(Mr.Oizo)ことカンタン・デュピューの6本目の長編。80年代フランスの刑事ものへのオマージュであると同時に、間違った時に、間違った場所に居合わせてしまったカフカ的とも言える世界を描くミステリー・コメディ」

［2018年シッチェス・カタロニア国際映画祭脚本賞］

[16:40-]

シェエラザード

Shéhérazade de Jean-Bernard Marlin

［フランス／2018年／112分／カラー／デジタル／フランス語／日本語字幕］

監督：ジャン=ベルナール・マルラン　出演：ディラン・ロベール、ケンザ・フォルタス、イディール・アズグ

© DR

ザカリは17歳、刑務所から出所したばかり。母親にも見捨てられ、マルセイユの下町をぶらついていたところ、シェエラザードという名の少女と運命的な出会いをする…。2018年のカンヌ国際映画祭批評家週間にて大きな感動を呼び、2018年ジャン・ヴィゴ賞受賞、2019年セザール賞にて新人監督賞・有望若手男優賞・有望若手女優賞をトリプル受賞した新進監督ジャン=ベルナール・マルランによる初長編作品。

© DR

「ここ最近、若手のフランス映画作家たちが精力的に、偉大な作家たち（ここではデパルマ、パゾリーニ）からの影響を怖れることなく受け入れ、クレイジーな試みに乗り出している。北マルセイユ界隈、それも学校と刑務所の入口を往来するように撮られたジャン=ベルナール・マルランの作品はその証となる一本だ」

［2018年ジャン・ヴィゴ賞受賞］
［2019年セザール賞　新人監督賞・有望若手男優賞・有望若手女優賞］

ゲストプロフィール　**三宅唱　Sho Miyake**

1984年北海道生まれ。初長編『やくたたず』(2010)を発表後、劇場公開第1作『Playback』(2012)を監督し、第65回ロカルノ国際映画祭インターナショナル・コンペティション部門に正式出品される。その他の作品に、音楽ドキュメンタリー『THE COCKPIT』(2015)、ビデオダイアリー「無言日記」シリーズ（2014〜）、佐藤泰志原作『きみの鳥はうたえる』(2018)などがある。また今春公開の最新作『ワイルドツアー』(2018)では、山口情報芸術センター（YCAM）と協働で地元の中高生らと制作を行い、話題を呼んでいる。

※作品紹介中の批評の引用はすべて「リベラシオン」紙より

2019.6.29〈土〉 SAMEDI 29 JUIN 2019

ギィ・ジル 〜見出された映画作家〜

RÉTROSPECTIVE GUY GILLES, UN CINÉASTE RETROUVÉ

＊17:10の回上映後、岡田秀則氏（映画研究者）によるアフタートークを予定しています。

Guy Gilles © DR

ギィ・ジル（1938-1996）：アルジェリアの首都アルジェ生まれ。子供の頃より映画ファンで、20歳で13分の美しい処女短編作品『消された太陽』を監督。アルジェリア戦争下の1960年、パリへ移住。ピエール・ブロンベルジェの援助により、何本か短編を監督し、その中の『Au biseau des baisers』を気に入ったジャン=ピエール・メルヴィルから援助を受け、初長編の自伝的作品『海辺の恋』(63)を3年がかりで製作し、ロカルノ映画祭で批評家賞を受賞。長編2作目『切られたパンに（オー・パン・クペ）』(67)では、マルグリット・デュラスらから賛辞の言葉が寄せられる。3作目『地上の輝き』(69)はイエール映画祭グランプリ、4作目『反復された不在』(72)はジャン・ヴィゴ賞を受賞。

「ユスターシュやガレルとさほど遠くなく、彼らの従兄弟のような存在でありながら、人目にあまり触れることなく映画を撮り続けていたギィ・ジル。忘却に抗う力を秘めていた彼の映画がようやく発見、再発見され、フランスをはじめ世界中で徐々に評価が高まっている。そして今回、日本で初めて、ギィ・ジルのもっとも美しい初期の作品を特集する」ジュリアン・ジェステール

[14:00-]

海辺の恋 L'Amour à la mer

［フランス／1963年／73分／カラー＆モノクロ／デジタル／フランス語／日本語字幕］

出演：ジュヌヴィエーヴ・テニエ、ダニエル・ムスマン、ギィ・ジル、シモーヌ・パリ、ジャン=ピエール・レオ、ジャン=クロード・ブリアリ

ジュヌヴィエーヴは恋人の水兵ダニエルと海辺の街ドーヴィルで落ち合い、愛し合う。ヴァカンスが終わり、ダニエルはブレストの駐屯地に、ジュヌヴィエーヴはパリに戻り、手紙を綴り、再会することを待ち望みながら、それぞれの生活を送る。ダニエルと同様にアルジェリア戦争からフランスに戻ってきた水兵、ギィの感情が2人のそれと混ざり合っていく。ギィ・ジル自身が同名の「ギィ」役で出演しており、彼の人生が語られる部分が主人公2人の人生と響き合い、作品にポリフォニックな深みを与えている。

© DR

［1964年ロカルノ映画祭批評家賞］

[15:40-]

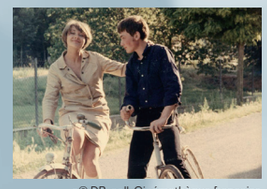
切られたパンに（オー・パン・クペ） Au pan coupé

［フランス／1967年／71分／カラー＆モノクロ／デジタル／フランス語／日本語字幕］

出演：パトリック・ジュアネ、マーシャ・メリル、ベルナール・ヴェルレ

ジャンヌはかつての恋人を思い返し、そして今もその恋を生きている。ジャンは15歳で少年院に入り、既成の秩序に反抗し、ブルジョワ的な世界も、ビート族たちの世界も拒否して死んでいった。彼の死を知らないジャンヌには、つねにジャンが亡霊のように寄り添っている。

「この作品での愛は顔によって想起させられ――何度も繰り返し見せられる女性の顔、視線、――それにはただただ感嘆させられる。そう、こうした試みはこれまで一度も映画でなされたことがなかっただろう」マルグリット・デュラス



c© DR, coll. Cinémathèque française

[17:10-]

地上の輝き Le Clair de terre

［フランス／1969年／102分／カラー＆モノクロ／デジタル／フランス語／日本語字幕］

出演：パトリック・ジュアネ、エドウィジュ・フイエール、アニー・ジラルド、ミシュリーヌ・プレール

チュニジア生まれで、母の死まで幼年期をその地で過ごしたピエールは、現在パリのマレ地区のロジエール通りに父親と住んでいる。突如、パリを離れる必要を感じたピエールは、再びチュニジアの首都チュニスに向かう。そこでかつての教師に導かれ、自分の過去の形跡を辿っていくことになる。

Guy Gilles © DR

［1969年イエール映画祭グランプリ］

ゲストプロフィール　**岡田秀則　Hidenori Okada**

1968年生まれ。国立映画アーカイブ（旧：東京国立近代美術館フィルムセンター）主任研究員として、映画のフィルム／関連資料の収集・保存や、上映企画の運営などに携わり、2007年からは映画展覧会のキュレーションを担当。また内外の映画史を踏まえた論考、エッセイを多数発表している。著作に『映画という《物体X》』(森話社)、共著に『クリス・マルケル 遊動と闘争のシネアスト』(森話社)など。